

公民館職員リレーコラム  
「わたしの袖ヶ浦発見！」



第三走者 坂井 つる代

みなさん「習志野かるた」はご存じですか？

2004年習志野市制50周年の記念事業として、市民からの応募4396通の読み札を基に制作され、「あ」～「ん」までの45枚のかるたに習志野市の自然や文化、歴史や施設、史跡・遺跡、産物、人物などが織り込まれているのが特徴です。袖ヶ浦の街は【「の」海苔ひびが消えた浜辺は今袖ヶ浦】で読まれています。また 2005 年から 2014 年の10年間は市内の小中学生を対象に東部体育館で「習志野市制50周年の習志野かるた大会」が行われて

いました。袖ヶ浦公民館でも去年の12月に4年ぶりに「習志野かるた大会」が行われました。今度はぜひ小学生のみなさん、参加してくださいね。

今年は市制 70 周年になります。習志野かるたができて 20 年、習志野かるたに読まれているところに出かけてもっと習志野を身近に感じてみてはいかがでしょうか。



令和 6 年度公民館講座・事業のご案内

事業名	内容	日程	対象
育児講座	乳児の健康・心理・遊び仲間づくり	5月～6月 金曜日 全6回	6～12か月児と保護者 10組
2歳児親子サロン	遊び・工作・読み聞かせ仲間づくり	5月～6月 木曜日 全6回	2歳児と保護者 10組
和太鼓倶楽部	和太鼓の基本技術と基本的な礼儀作法	5月～11月 土曜日 全12回	小学1～6年生 20人
大人の教養講座	初夏の寄せ植え体験	5月29日(水)	成人 16人 初めての方優先
植物観察 草木の名前がわかる観察と講座	季節の移り変わり、地球環境の変化を学ぶ	4月～令和7年3月 水曜日 全11回	成人 30人

内容などは変更になる場合がありますので、ご了承ください。

時間や募集などの詳細は、お問合せまたは袖ヶ浦公民館ホームページをご覧ください。➡



チーム  
袖ヶ浦

公民館報/ チーム袖ヶ浦  
発行/ 袖ヶ浦公民館  
指定管理者 株式会社オーエンス  
習志野市袖ヶ浦 2 丁目 5 番 1 号  
TEL 047-451-6776 FAX 047-451-6284  
HP <https://www.narashino-kominkan.jp/sodegaura-kominkan/>



地域でつくる・つなげる伝承文化



令和5年11月12日に開催した「和太鼓 in ならしの」は20回目を迎えました。

袖ヶ浦連合町会 和太鼓そでっ鼓連の指導のもと、袖ヶ浦こども園5歳児クラス、袖ヶ浦西小学校3年生、袖ヶ浦東小学校3年生、袖ヶ浦公民館主催講座和太鼓倶楽部（以下和太鼓倶楽部）が練習の成果を発表する場として「和太鼓 in ならしの」を開催しています。

袖ヶ浦連合町会 和太鼓そでっ鼓連は、1996年に青少年健全育成、まちづくり、地域文化伝承を目的として、袖ヶ浦連合町会お囃子連として設立しました。2000年から始まった袖ヶ浦和太鼓倶楽部の指導をはじめ、地域のこども園、小学校に出向き、太鼓を通して礼に始まる日本文化を伝える活動を積極的に行っています。

今回、和太鼓倶楽部 24 名の子ども達は、袖ヶ浦をイメージした「袖ヶ浦太鼓」を演奏しました。太鼓の地打ちで袖ヶ浦が海だった頃を表現しました。そして、太鼓の上打ちは袖ヶ浦の新しい埋立地に全国から集まった人々が、協力しながら生活をしていく姿を連想させます。

「和太鼓 in ならしの」は、和太鼓の演奏を通して地域の子供達はじめ若い世代に、袖ヶ浦地区の歴史や文化、地理を伝え、つなげる場になっています。

\*地打ち、上打ちは、和太鼓奏法（和太鼓の叩き方）



# 地域でつくる・つなげる伝統行事

## ◀ 年末年始子ども向け事業 ▶

埋立地袖ヶ浦で生まれ育った子ども達にふるさとを持たせようという趣旨で実施してきました。地域の連帯感を深めつつ後継者の育成とともに伝統行事として次代につなげていく事業です。



令和5年

12/17

門松づくり

令和6年

1/14

どんど焼き

令和6年

1/28

節分豆まき大会

新年を迎えるため、家の門前等に立てる門松づくりを体験し、日本の伝承文化の継承につなげようと開催しました。

習志野市民スポーツ指導員袖ヶ浦地区のみなさんが、第三中学校、袖ヶ浦西小学校、袖ヶ浦東小学校、袖ヶ浦こども園及び袖ヶ浦公民館に設置する本門松を作製しました。第三中学校男子バレーボール部のみなさんも袖ヶ浦こども園の本門松づくりに挑戦しました。竹の節の部分をまたぐように斜めに切ると笑っている口のように見えて縁起がいいと説明を受け、のこぎりで竹を切ることから始めました。慣れない手つきながらも、真剣な表情で取り組む姿に、周りの大人たちから温かい言葉が贈られました。できあがった本門松は、各園校の正門、公民館の入口に飾られ、新しい年を迎えました。

また、4年ぶりに20名の小学生が参加して、ミニ門松づくりも行いました。始まる前に、指導員のみなさんは縄の結び方の確認と練習をしました。子ども達にも縁起の良い縄の結び方が伝わり、思い思いにできあがったミニ門松を大切に抱えて帰って行きました。



どんど焼きは、小正月の火祭りでも、お正月に使った門松やしめ飾り、お札を持ち寄って焼き、その火にあたり、無病息災を願う日本の伝統的な行事です。

地域の協力者は、どんど焼き、火の輪くぐり、絵馬の担当に分かれて、早朝から準備をしました。

袖ヶ浦連合町会和太鼓そで鼓連の和太鼓の音色に合わせて、地域のみなさんがどんど焼きの周りに集まってきました。第三中学校ソフトボール部のみなさんに、どんど焼きと火の輪の点火のお手伝いをいただき、高く燃え上がったどんど焼きの火に大きな拍手がわきました。第三中学校男子卓球部もどんど焼きや絵馬の受付を担当し、地域のみなさんと交流を深めました。

三世代で参加していた家族は、絵馬に願い事を書き、火の輪をくぐりながら「今年も元気に頑張ります。」とお話していました。

小学生の保護者からは、「袖ヶ浦地区で育ちましたがはじめて参加しました。どんど焼きの由来を知り、子どもにも伝えていきたい行事です。」と、ふるさとの行事を体験しました。



第44回を迎える節分豆まき大会は、地域の協力者が会場準備を行い、第三中学校野球部のみなさんが地域の方に鬼の化粧をしていただき、衣装に着替えることから始まりました。

子ども達が参加した福笑いは、手作りの鬼の顔に目隠しをした子どもたちが目や鼻、口のパーツを貼っていきます。笑った顔の青鬼、怒った顔の赤鬼に拍手と笑い声で会場が包まれました。

鬼の登場です。子ども達は、鬼に扮した第三中学校野球部のみなさんに目を丸くしていましたが、邪気を払うため、一心不乱に豆をまきました。

年男、年女の子どもも参加した豆まきでは、会場全体に「鬼は外！福は内！」の元気な声が響きました。園長先生、校長先生から豆を受け取りたい子ども達も集まってきました。

豆をまく人も豆を受け取る人も、元気をもらえる節分豆まき大会でした。協力者からは、「伝統行事を通して地域交流ができました。子ども達がふるさとを感じてくれたらうれしいです。」と感想を話していました。